

小・中学校適正配置計画（骨子案）／学校再編（試案）

高齢者叙勲

このほど、高齢者叙勲受章者が発表され、元公立小学校長の藤井嗣信さんが、教育功勞で瑞宝双光章を受章されました。心からお祝い申し上げます。
 （※年齢は受章時を掲載）

瑞宝双光章（教育功勞）



藤井嗣信さん
 (88歳 角館町川原寺前)

昭和41年以来、主に現仙北市3地区の教諭として奉職し、平成8年に千畑町立千屋小学校長で退職されるまでの長きにわたり、教育現場でその手腕を発揮され、教育の振興や発展に貢献されました。退職後は、角館町生涯学習奨励員など、地域にも大きく貢献されました。

●小・中学校適正配置計画（骨子案）

昨年3月に定めた学校適正配置方針に沿って、望ましい学校規模を具体化し、その実現に向けた方向性を学校適正配置計画（骨子案）にまとめました。



▶望ましい学校規模

小・中学校とも「学級替えができる規模（1学年2学級以上）」を目指す。ただし、地理的条件により通学などに配慮する場合は「1学年20人程度」を目標とする。

▶実現に向けた方向性

小・中学校それぞれの統合を検討する。小中一貫教育を行う学校への再編もあわせて検討する。

●学校再編（試案）

学校適正配置計画（骨子案）に基づき、昨年12月にこども園など小・中学校保護者にご協力いただいた「私が考える学校再編案アンケート」をまとめた結果、小・中学校ともに4案が浮かび上がりました。

この試案をたたき台として、今後、統合校の組み合わせ（小中一貫教育も含む）、使用校舎および通学方法などについて、保護者や地域の皆さまとともに考えていきます。

小・中学校	角館	生保内	神代	西明寺	桧木内
A案	単独	2校統合		2校統合	
B案	単独	単独	3校統合		
C案	単独	4校統合			
D案	5校統合				

角館高校スキー部

世界大会の活躍を報告

3月1日、角館高校の卒業式当日、同校スキー部に所属する3年生6人から、田口市長へ各種大会の結果などが報告されました。

今年は、15歳から18歳までのアスリートを対象としたユースオリンピック冬季競技大会が、1月19日から韓国で開催され、日本代表選手として同校から鎌田宇朗選手（3年）が出場しました。

この国際大会は、オリンピック同様4年に一度開催されるもので、今回で4回目の開催となりました。出場した鎌田選手は、大会第7日目に行われたアルペンスキー男子回転で、4位に入賞した成績を報告したほか、「チームメイトや両親、スタッフに支えられてスキーを続けることができたことに感謝する。感謝の気持ちを忘れずスキー部で培った経験、成長できたことを活かしての人生に活かしたい」と話しました。



左から、石塚心樹さん、小西翔汰郎さん、鎌田宇朗さん、千田隼さん、吉田心夢さん、井上真里愛さん。

同校スキー部は、3年生6人、2年生4人、1年生2人が所属し、このほかにも各種大会で活躍しています。※学年、部員数は取材時を掲載。

神代中学校スキー部

全国大会の活躍を報告

2月6日から長野県野沢温泉村で開催された「第61回全国中学校スキー大会」に、神代中学校の清水快真さん、清水健真さん、津嶋柚汰さん、荒澤凜桜さんの4人が、クロスカントリースタイルに出場しました。

2月21日には、出場した4人が市役所西木庁舎を訪れ、須田教育長へ出場の報告と、結果を報告しました。

男子4×5キロリレーの秋田県チームとして出場した清水快真さんと清水健真さんは、3位入賞に貢献しました。出場した選手からは、「全国大会の会場は、暖冬の影響で、雪不足のため地面が見えていたところもあった。そのような状況でコース整備をしてくれた方や指導してくれた方に感謝している。この経験をこの生活に活かしていきたい」と感想がありました。



左から、津嶋柚汰さん、荒澤凜桜さん、清水健真さん、清水快真さん、須田教育長。



学校適正配置に関する取り組み状況は、市ホームページ特設コーナーでご覧いただけます。
 （学校適正配置方針、これまでの学校適正配置検討委員会の会議記録、意見交換会の開催結果、アンケート結果など）

問合せ／仙北市教育委員会
 学校適正配置準備室（西木庁舎）
 ☎43-3381

菊地心さん

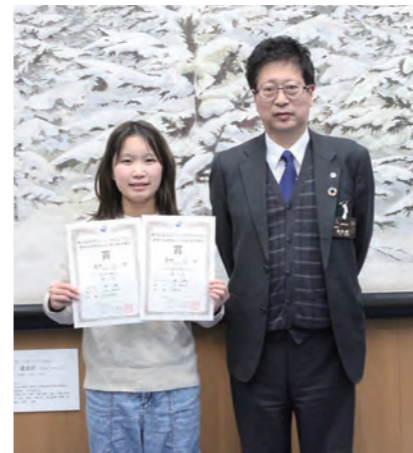
水泳で全国大会へ

1月14日、秋田県立総合プール（秋田市）で開催された「第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会・秋田県予選会（秋田県水泳連盟主催）」に、菊地心さん（角館小6年）が出場しました。

菊地さんは、出場した女子50m背泳ぎ、女子100m背泳ぎの11歳〜12歳の部で優勝したほか、女子4×50mメドレーリレー、女子4×50mフリーリレーにも出場し、優勝しました。

2月21日には、市役所西木庁舎を訪れ、須田教育長へ優勝の報告と、女子50m背泳ぎと同100m背泳ぎで標準記録を突破したことにより、全国大会出場が決まったことを報告しました。全国大会となる「第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」は、3月27日から4日間の日程で、東京アクアティクスセンター（東京都）で開催されます。

※学年は、取材時を掲載。



優勝の賞状を持つ菊地心さん（左）と、須田教育長。

令和5年度

仙北市スポーツ賞

仙北市スポーツ協会が主催する「令和5年度仙北市スポーツ賞」が発表されました。各種大会で優秀な成績を残した個人43人、7団体が表彰を受けました。

【受賞者】 ※敬称略・（ ）は競技種目

▶特別賞 柴田優星（硬式野球）／阿部勇咲（バスケットボール）

▶栄光賞 佐々木功（スキー）／伊藤雅英（ソフトテニス）／澤山輝和（同）／武藤愛美（同）／田口朱実（弓道）／藤田純葵（同）

／羽崎妙子（水泳）／橋本諒（同）／仙波温人（陸上競技）

▶奨励賞 羽場響仁（柔道）／山崎薫（空手）／新田淳仁（同）／木村光来（水泳）／高橋源太郎（空手）／小松大斗（ダンス）

／花脇紳士（空手）／佐藤采樹（水泳）／菅原康太郎（同）

／伊東万莉（同）／佐藤一穂（同）／高橋美希（同）／真崎那菜（弓道）

／細川脩（同）／千葉里燈人（同）／草薙史（同）／藤澤遥陽（同）

／田口悠歩（柔道）／佐藤亜耶希（同）／藤村世海（同）／佐藤伊咲季（同）

／清水快真（クロスカントリースキー）／清水健真（同）

／石川才稀（陸上競技）／小野翔（剣道）／湯澤蓮（空手）

／佐々木雄（同）／菊地心（水泳）／水平讓翔（スキー）

▶団体栄光賞 角館高校定時制男子バドミントン部（バドミントン）

《金谷慎吾・渡辺駿馬・高山淳仁・伊藤修兵・石郷岡傑・三浦一馬》

／角館大弓会 女子（弓道）《佐川和花・田口朱実・齊藤美喜子》

▶団体奨励賞 田沢湖慈愛館スポーツ少年団（柔道）《佐藤亜耶希・佐藤伊咲季・小原理子》

／YFCセレジエスタJY（サッカー）

《佐貫伴助・柴田陽生・渡邊寛己・石垣来・布谷龍夢・竹内琉偉・千葉大我・小原遙真・及川宗忠・渡部結斗・安藤凜空・米澤銀一郎・高橋磨生・細谷亮仁・佐藤龍正・佐々木珀飛》

／角館中学校男子剣道部（剣道）《青柳将五・小林稜恭・西根颯士・太田息吹・小野翔・門脇環》

／角館マックススポーツ少年団（軟式野球）《坂本菜穂・小松愛翔・藤原七海・佐藤怜輝・藤原翔琉・大野龍騎・荒木桜輔・大澤南朋・小林季生・亀谷奏樹・小松莉奈・森岡奏太・千葉力丸・門脇大士・佐藤大和・千葉心愛・荒木桃子・門脇健士》

▶普及振興賞 アカススポーツ少年団（水泳）

▶指導者賞 西根義明（剣道）／千葉和之（野球）／渡辺友康（水泳）



（百寿）おめでとうございます

菅原正さん

3月14日、菅原正さん（角館町西長野）が100歳の誕生日を迎えられ、お祝いが贈られました。



赤上副市長から正さん（右）にお祝い花束が贈られました。

一般社団法人秋田県仙北建設業協会建友会
ホワイトボード付きパーティション2枚
寄贈いただきました



左から建友会の齋藤法副会長、西宮優太事務局長、須田教育長、高橋祥亨会長、佐藤達也副会長。

2月22日、一般社団法人秋田県仙北建設業協会と同協会建友会から、市内の特別支援学級の子どものための教育に役立ててほしいと、ホワイトボード付きパーティション2枚を寄贈いただきました。

当日、市役所西木庁舎を訪れた建友会の高橋祥亨会長は「特別支援学級に、私たちが手伝えることがないかというところから始まりました。仙北市のほか大仙市、美郷町にもリクエストを聞いて、この事業を続けている」と話しました。

第3回男女共同参画チャレンジ賞

清水大さん（個人）と
（株）瀧神巧業（企業・団体）が受賞

この表彰は、仙北市で多年にわたり男女共同参画社会に向けた機運の醸成などに功績のあった方や、仙北市の男女共同参画の推進に貢献してきた方などを顕彰することによって、男女共同参画社会づくりの実現に資することを目的とし、仙北市男女共同参画推進委員会により設立されました。

表彰の種類は、個人の部、企業・団体の部と2種類あり、今年度は清水大さん（個人の部）、株式会社瀧神巧業（企業・団体の部）が受賞されました。

清水さんは、高校生の時に「生まれ持った性別は男性だが、心は女性」であることを周囲に告白し、卒業後、美容の道に進みたいと考え、ツルハドラッグ角館店で全国でも珍しい男性美容部員として勤務されています。

ツルハグループが開催する「トータルビューティーコンテスト世界大会」では2年連続で表彰されており、ジェンダー平等を推進する仙北市において地域で活躍するモデルとなっていると評価されました。

株式会社瀧神巧業は、女性正社員の採用を目標に掲げており、社員56人のうち女性社員14人と全体の25%を占めることや、女性社員が中心となり取り組んでいるSNSを活用した企業PRなど、女性視点を多く取り入れた経営に取り組んでいることが他企業の模範となっていると評価されました。



左から、田口市長、清水大さん、（株）瀧神巧業の社員を代表して出席した五十嵐梨花さん、橋本聖花さん。

表紙の写真から

仙北市民会館でロビーコンサート 青谷明日香さん出演



ステージ上にアーティストを囲むように作られた会場。

3月20日、仙北市民会館のステージで、青谷明日香さんのロビーコンサートが開催され、事前配布の整理券を持った80人が会場を訪れました。

これは、市民会館の自主事業でアーティストを囲んだ小規模のコンサートとして企画したもので、「あんべいいな」でおなじみ、大仙市出身シンガーソングライターの青谷明日香さんが、6年ぶりに市民会館で曲を披露しました。

第一部では、日本各地を訪れた際に出会った人の話を聞いて作った曲を中心に7曲を披露したほか、第二部では、弟の結婚式で披露した曲やおじいちゃんを歌った曲など7曲を披露しました。

また、アンコールでは青谷さんの曲「3月20日が近づくと」を披露すると、会場から大きな拍手が送られました。

仙北市の魅力为全国に発信

田口成浩選手と高橋靖彦選手

仙北市観光大使に任命

2月19日、市役所角館庁舎で仙北市観光大使任命式が行われ、秋田ノーザンハピネットに所属するプロバスケットボール選手の田口成浩氏と、同所属でラート選手の高橋靖彦氏に、田口市長から仙北市観光大使任命証が手渡されました。

両選手とも仙北市角館町出身で、スポーツ選手としての知名度を活かした誘客活動、地元への愛着を活かした本市の魅力発信に期待し、新たに任命する運びとなりました。

田口選手の代名詞にもなっている角館祭りのやま行事で使われる「おいさー!」のかけ声は、ファンにもそのかけ声が浸透しており、様々な場面で会場を盛り上げています。

高橋選手は、ラート選手として世界選手権で史上最多3度の個人総合優勝を果たし、仙北市内の子どもたちをはじめ、全国各地でラートの魅力を伝える活動を行っています。

任命証を受け取った田口選手は「試合を通じて、仙北市をPRしていきたい」。また、高橋選手は「自分が活躍することで、仙北市を世界に広めたい。世界大会も控え、頑張りたい」と話しました。

両選手の活躍とともに仙北市のPRにつながることを期待されます。



左から、ラート選手の高橋靖彦さん、プロバスケットボール選手の田口成浩さん。



秋田大学の学生

榊細工のカレンダーを考案

3月13日、市役所角館庁舎で秋田大学の学生と有限会社富岡商店が連携し制作した榊細工の万年カレンダー「遙か」の制作発表会が開催されました。

この取り組みは、秋田大学の教育文化学部地域文化学科2年次学生が、地域学基礎の授業で榊細工を取り上げ、現状と課題をもとに、ブランディングとターゲット、ブランドメッセージなどを分析。その分析から、世代を超えた家族で代々継承される桜が持つ美しさや優しさ、木のぬくもりなどを感じられるよう、

報告会に出席した有限会社富岡商店の富岡浩樹代表取締役（前列左）、田口市長（前列中央）、赤上副市長（前列右）、後列左から学生の横山友里江さん、佐々木琴美さん、遠藤麻依さん、石崎里歩さん、進藤彩さん、伊藤慎一准教授。



茶筒をモチーフとした回転式のカレンダーとなっていて、サクラをあしらった写真立ても組み込まれています。

古くから伝わる旧小正月行事

なるか

2月24日、市役所田沢湖庁舎前広場で「なるか」が開催されました。

この「なるか」は、田沢湖生保内地区に古くから伝わる小正月行事で、かつては稲わらに火をつけて振り回し害虫を追い払うしぐさで、五穀豊穣を祈願するものですが、近年は規模を縮小して正月のしめ飾りなどを焼くお焚き上げのみ行われています。

この行事は、かつて各集落で行われていましたが、一時期完全になくなっていました。その後、当時の田沢湖町職員有志が保存会を結成し再開され、今でも続けられています。今回は、生保内地域運営体のご協力もいただき、無事に開催することができました。



お焚き上げのみ行われました。

子宝や縁結び 家内安全などを祈願

中里のカンデッコあげ

2月24日、中里寒之神堂前（松木内字中里）で「中里のカンデッコあげ」が行われました。

このカンデッコあげは、ホオノキで作った小型のくわ（カンデッコ）とクルミの木で作った男根をしめ縄の両端に結んで一対にしたものを、豊作や子宝、家内安全を祈ってご神木の桂の木に投げかけます。うまく枝にかかるとう願いが叶うと言われています。



ご神木に向かってカンデッコを投げかけます。

地域住民の方は「カンデッコを手作りしているが、人口減少や高齢化で作り手が少なく、以前の半分近くになってしまったが、なくすこともできない」と話し、高さのある桂の木にカンデッコを上手に投げかけていました。

きれいな桜を咲かせるために

桜の剪定作業を実施

毎年、多くの人を楽しませてくれる松木内川堤のソメイヨシノは、植えてから90年をむかえます。老化した木々に対し、手をつくす程にその見事な姿を見せてくれます。

今年も2月15日から桜の剪定作業を開始し、枯れた枝や病気の枝を切り落としたり、風通しや日当たりをよくして元気にさせる手入れが、4月上旬まで続きます。

今年の剪定作業には、昨年12月に樹木医の資格を取得した文化財課職員の板橋朋洋技師も加わり、仙北市さくらアドバイザーの黒坂登さんから、これまでのノウハウを教わりながら作業を進めました。

板橋技師は「樹木医になったことがゴールではなく、角館の桜を守り訪れる人に喜んでいただける花を咲かせられるよう頑張りたい」と話しました。



高所作業車を操り、剪定作業をする板橋朋洋技師。